

第319回 昭和の森自然観察会

田んぼの生き物

山下美佐子（東金市）

日 時：2018年7月8日（日） 10時～12時 天気：晴れ

参加者：35名（大人16名・子ども19名）指導員：9名

担当指導員：木下順次 山下美佐子

真夏の暑さの昭和の森で「田んぼの生き物」観察会が実施された。元気な自然大好き親子がたくさん参加した。「田んぼは稻を育てお米を作る場所だけでなく、色々な生き物が生まれて育ち、棲息する場所であり、その生き物たちはお互いに食べたり、食べられたりの関係で、お互につながっていて、どの種類もいなくてはならないことを話し、観察会を始めた。

木陰に入ると涼しく、ニイニイゼミの合唱を皆で聞きながら進む。小枝の先に

「トンボがいるよ」と参加者。早速じんけんでゲットした補虫網で捕まえて観察。小さな可愛い手でチョキをし、トンボの口や眼や脚、気門のある腹をみんなで観察した。「ノシメトンボはアカトンボで、田んぼで生まれるんだよ。田んぼで羽化したアカトンボは何を食べるかな？」と問うと「蚊を食べるよ」と虫博士の男の子が即回答。ノシメトンボやオオシオカラトンボは捕まえられるとしばらく飛び立てない。子どもの胸にトンボを止まらせた。参加者の子どもは緊張して飛び立つまでトンボを見守っていた。

田んぼに着き、池を覗くと、カワニナの歩いた後が迷路のよう。メダカが「メダカの学校」で泳いでいる。ゆっくりとあぜ道に入り、田んぼの中を観察。オタマジャクシ、ヒメアメンボ、ヒメゲンゴロウ等が観られる。メダカの赤ちゃんの眼がキラキラ光りながら泳いでいる。稻の葉っぱでコバネイナゴの赤ちゃんを見つける子、オオタニシを見つける子、子ガエルになったばかりのニホンアカガエルもぴょんぴょん跳んでいる。少し大きな子が手で捕まえて、捕まえられなかつた子に見せてあげるほほえましい光景もあった。小さなヒバカリの姿も発見。下夕池ではチョウトンボやショウジョウトンボが悠々と飛んでいる。網を振り回して捕まえようとしたが残念ながら素早く逃げられてしまう。池のそばのクヌギの木で発見したのは、樹液を吸うカナブンやヤセバエの仲間。

「虫さんたちものどが渴くね」。最後は臨時ミニ水族館でヨシノボリやホトケドジョウ、ヤゴ等を観察。子ども達は15センチほどもあるドジョウの髭数えたり、手で触ったりして初めてのドジョウのヌルヌルの感触を楽しんでいた。

参加された皆さんのが感想は、①昔 虫少年だったことを思い出した、②普段観ることが出来ないヤゴやホトケドジョウなどの実物を観ることが出来て良かった、③ここは貴重な生き物がまだ生きていることがわかった、④ヤゴの顔が怖かった、⑤魚がいっぱいと面白かった、などの感想をいただいた。

